

氏 名	西田 傑
授 与 し た 学 位	博 士
専 攻 分 野 の 名 称	医 学
学 位 授 与 番 号	博 甲第 5887 号
学 位 授 与 の 日 付	平成31年3月25日
学 位 授 与 の 要 件	医歯薬学総合研究科 病態制御科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学 位 論 文 題 目	The Glasgow Prognostic Score Determined During Concurrent Chemoradiotherapy Is an Independent Predictor of Survival for Cervical Cancer (化学放射線併用治療中に測定されたGPS(Glasgow prognostic score)は子宮頸癌において重要な予後因子となる)
論 文 審 査 委 員	教授 前田嘉信 教授 田端雅弘 准教授 平木隆夫

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

血中アルブミンとCRPを用いたグラスコ予後スコア(GPS)は、担癌患者の炎症・栄養状態を反映し、特に治療前のGPSは様々な癌種で予後予測因子とされる。しかし、GPSを治療中に測定することについては報告がない。我々は、2004年から2014年の間に化学放射線併用療法を受けた子宮頸癌患者91例を対象に、治療中に測定したGPSが臨床データや予後と関連があるか、後方視的に検討した。治療前にGPSが0点だったのは72例、1点は14例、2点は5例であった。一方、治療中にGPSが0点だったのは36例、1点は27例、2点は28例であった。治療中にGPSが2点であった群は、リンパ球減少や下痢、低ナトリウム血症などが有意に多かった。無病生存期間(DFS)、全生存期間(OS)の中央値はそれぞれ31.4ヶ月、38.0ヶ月であり、治療中にGPSが2点であった群はGPSが0点および1点の群よりも有意にDFS、OSが短かった。多変量解析では治療中にGPSが2点だったことはOSにおいて独立した予後因子であった。

論 文 審 査 結 果 の 要 旨

血中アルブミンとCRPを用いたグラスコ予後スコアは、担癌患者の炎症・栄養状態を反映し、様々ながん腫で予後予測因子として有用であることが知られている。

本研究では治療開始後のグラスコ予後スコアが子宮頸癌において予後因子となり得るかを目的にしている。2004年から2014年までに化学放射線併用療法を受けた91例を後方視的に解析し検討した結果、治療後のグラスコ予後スコアは全生存期間と相關することが明らかになっている。

委員からは、治療後は治療が患者に与える影響が加味される点や治療後に治療反応性を因子に加える点について質問があり、発表者と討議を行った。

本研究は子宮頸癌において治療後に予後を予測する因子としてグラスコ予後スコアが有用であることを示唆させる価値ある業績と考えられる。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。